

2022年3月期決算説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



2022年5月13日



1. 2022年3月期 決算 トピックス



1

純資産 898百万円となり債務超過解消（自己資本率：38.3%）

当連結会計年度末において、純資産879百万円となり順調に回復

2

第三者割当増資や新株予約権による資本調達の実施（総額741百万円）

ネクスタ匿名組合及び阪和興業を割当先として、499百万円の第三者割当増資を実施

3

営業時間短縮や休業、酒類提供の自粛等で、売上は微増にとどまったが、コスト抑制や、協力金の下支えもあり、最終損益は287百万円の黒字化で着地

感染拡大が一時収束した21年10月-12月は単月で営業黒字に回復

4

独立系商社の阪和興業株式会社との協業を推進

資本業務提携を締結した阪和興業と、加工事業での協業（水産加工品の受託業務）を推進。さらには、当社グループの安全を軸とした高品質な牡蠣の六次産業化のノウハウと、阪和興業の有するコンテンツ・ノウハウ、ネットワークを活かし、今後、成長が見込まれる牡蠣の陸上養殖事業や卸売事業、海外展開の育成を図っていく。

5

利益率の高い「卸売事業」が22年3月、4月と2カ月連続で、コロナ前を上回る

コロナ禍で、外食の客数が減る中、客単価の向上を目的としたアイテムとして牡蠣を導入する飲食店が増加

連結損益計算書の概要①（前年比／前々年比）

感染拡大が落ち着いた10月-12月は、3か月連続で営業黒字回復。しかし、12月以降「第6波」の影響で、売上の戻りは鈍化。その結果、連結売上高は、対前年+8.6%にとどまり、営業利益の改善も+75百万円にとどまった。一方、最終利益は、時短要請の協力金が下支えとなり、287百万円の黒字で着地。

(百万円)	2020年3月期 (参考)	2021年3月期	2022年3月期	増減額 (前年同期比)	ポイント
売上高	3,579	2,338	2,539	+200 (+8.6%)	売上は回復傾向にあったが、第6波の影響で、回復が鈍化
売上総利益	2,359	1,512	1,623	+111 (+7.4%)	
販管費	2,505	1,871	1,907	+36 (1.9%)	コストコントロールにより、経費を抑制
営業利益	△146	△359	△283	+75	損失幅が改善
経常利益	△157	△367	△288	+78	
特別利益	0	114	625	+511	時短要請の協力金等
特別損失	0	△410	△3	+407	前年度は減損の実施
親会社株主に帰属する 当期純利益	△106	△641	287	+928	最終損益は黒字化で着地

連結損益計算書概要（四半期推移）②

年間を通じて、時短営業・休業、酒類提供制限などの影響を受けたものの、第3四半期は、売上高の回復により1億円の営業黒字を実現。その結果、通期では営業損失は縮小し、最終黒字で着地。

	第1四半期（4月～6月）			第2四半期（7月～9月）			第3四半期（10月～12月）			第4四半期（1月～3月）			通期		
	21/3	22/3期		21/3	22/3期		21/3	22/3期		21/3	22/3期		21/3	22/3期	
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	前年比 (%)
売上高	231	412	+78.2	673	455	-27.0	874	977	+11.7	560	695	+24.1	2,338	2,539	+8.6
売上原価	94	147	+56.3	246	184	-25.9	301	335	+11.5	184	249	+35.3	826	915	+10.7
売上 総利益	136	265	+93.9	426	271	-27.7	572	641	+11.9	376	446	+18.6	1,512	1,623	+7.4
販管費	350	416	+18.9	502	437	-22.4	542	541	-0.2	476	513	+7.7	1,871	1,907	+1.9
営業利益	△213	△151	-	△76	△165	-	31	100	+225.2	△100	△67	-	△359	△283	-
特別利益		201	-	58	249	-	7	76	-		99	-	114	625	+511
親会社株主 に帰属する 当期純利益	△206	45	-	△20	64	-	38	149	+286.1	△453	29	-	△641	287	-

貸借対照表概要

純資産 898百万円となり債務超過を解消（自己資本率：38.3%）

(百万円)	2021年3月期 期末	2022年3月期 期末	(百万円)	2021年3月期 期末	2022年3月期 期末
資産の部			負債の部		
流動資産	771	1,560	流動負債	635	467
現金及び預金	541	1,272	買掛金	73	93
売掛金	146	183	短期借入金 ^{*1}	336	54
たな卸資産	27	30	その他	226	320
未収入金	26	59	固定負債	997	927
その他	31	13	長期借入金	577	522
固定資産	745	733	その他	420	405
有形固定資産	520	518	負債合計	1,633	1,394
無形固定資産	0	0	純資産の部		
投資その他資産	225	215	株主資本	△152	879
敷金及び保証金	225	215	その他	36	19
繰延資産	0	0	純資産合計	△116	898
資産合計	1,516	2,293	負債純資産合計	1,516	2,293

*1．1年内返済予定の長期借入金及び1年内償還予定の社債を含む

セグメント別業績概況

コロナ禍の長期的な影響で「店舗事業」「卸売事業」の売上高は微増にとどまったが、営業利益は増益を確保。また、「加工事業」については受託事業が稼働を開始したことで損失幅が縮小した。

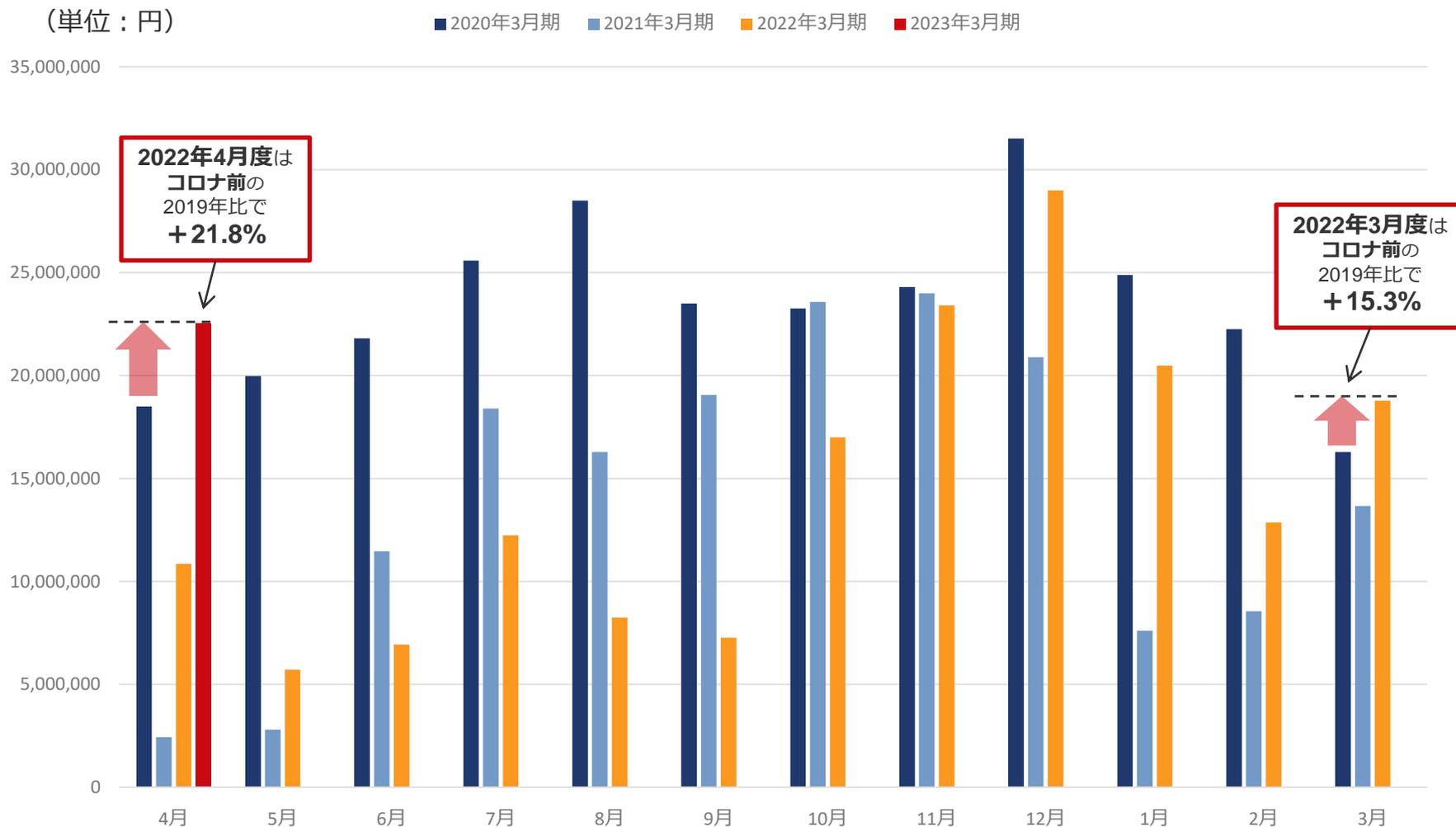
(百万円)		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比 (%)	ポイント
店舗事業 オイスターバーレストランでの飲食サービス	売上高	2,152	2,197	+2.1	緊急事態宣言などで、不安定な営業が断続的に続き、売上は微増だが、コストマネジメントが進み大幅な増益を実現。
	営業利益	6	60	+771.3	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の外販卸売り	売上高	168	172	+2.3	取引先も、休業や時短営業などの影響を受けており、売上高は前年同期比で2.3%増にとどまる。ただし、足元ではコロナ前を上回ってきた。
	営業利益	51	60	+17.6	
加工事業 岩手・大槌工場	売上高	62	128	+104.2	阪和興業との受託事業が稼働を開始し、前年同期比29百万円の損益改善に寄与。さらに稼働を高め、早期黒字化を目指す。
	営業利益	△70	△41	—	
その他 EC通販、海外卸売	売上高	17	51	+188.4	EC通販、海外卸売が順調に拡大
	営業利益	0.4	6	+1395.7	

調整額	売上高	△62	△10		
	営業利益	△346	△369		
連結財務諸表計上額	売上高	2,338	2,539	+8.6	
	営業利益	△359	△283		

【卸売事業（国内）について】

卸売り事業は、好調に回復し、直近の2022年4月度は2019年比で+21.8%と、2か月連続でコロナ前を上回ってきた。

国内卸売月次比較

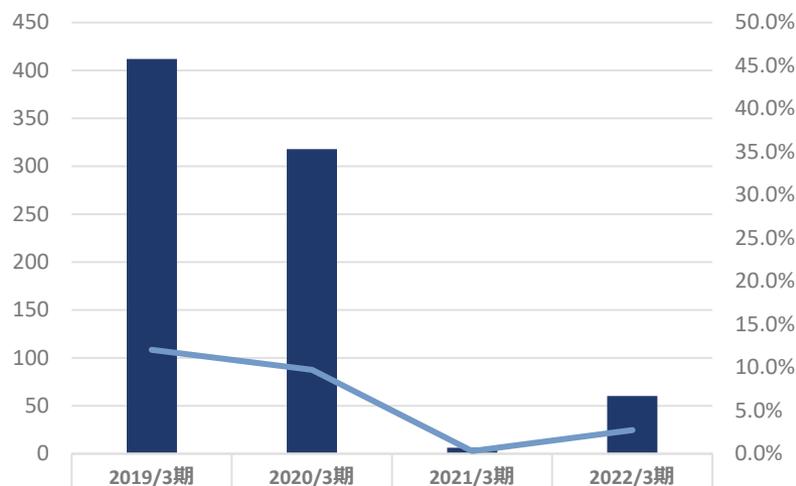


セグメント別（店舗事業/卸売事業）営業利益額と営業利益率の比較

店舗事業はコロナに伴う売上減により、営業利益も大きく影響を受けた一方、卸売事業は営業利益率が30%～41%と高いうえ、3月、4月と、2か月連続でコロナ前の売上を上回ってきたことから、2023年3月期の伸びに向けて弾みがついた。

【店舗事業】 営業利益額/営業利益率 推移

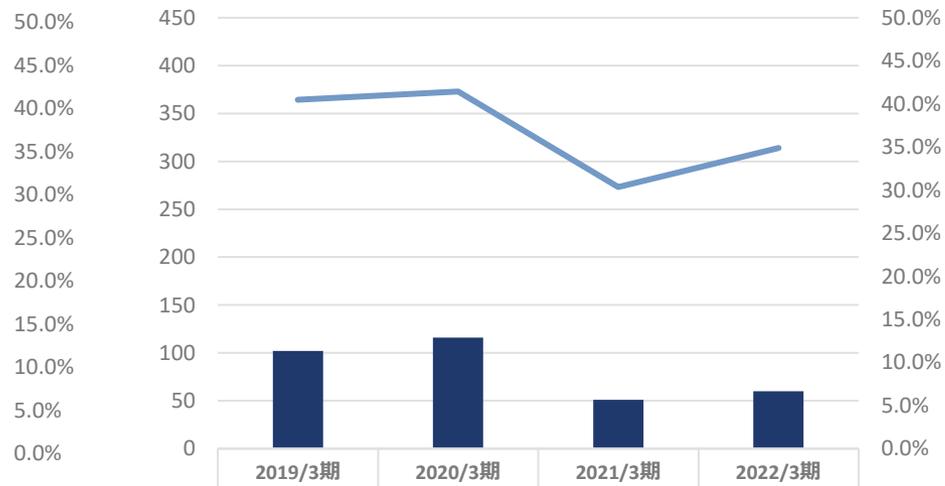
(単位百万円)



営業利益	412	318	6	60
営業利益率	12.0%	9.7%	0.3%	2.7%

【卸売事業】 営業利益額/営業利益率 推移

(単位百万円)

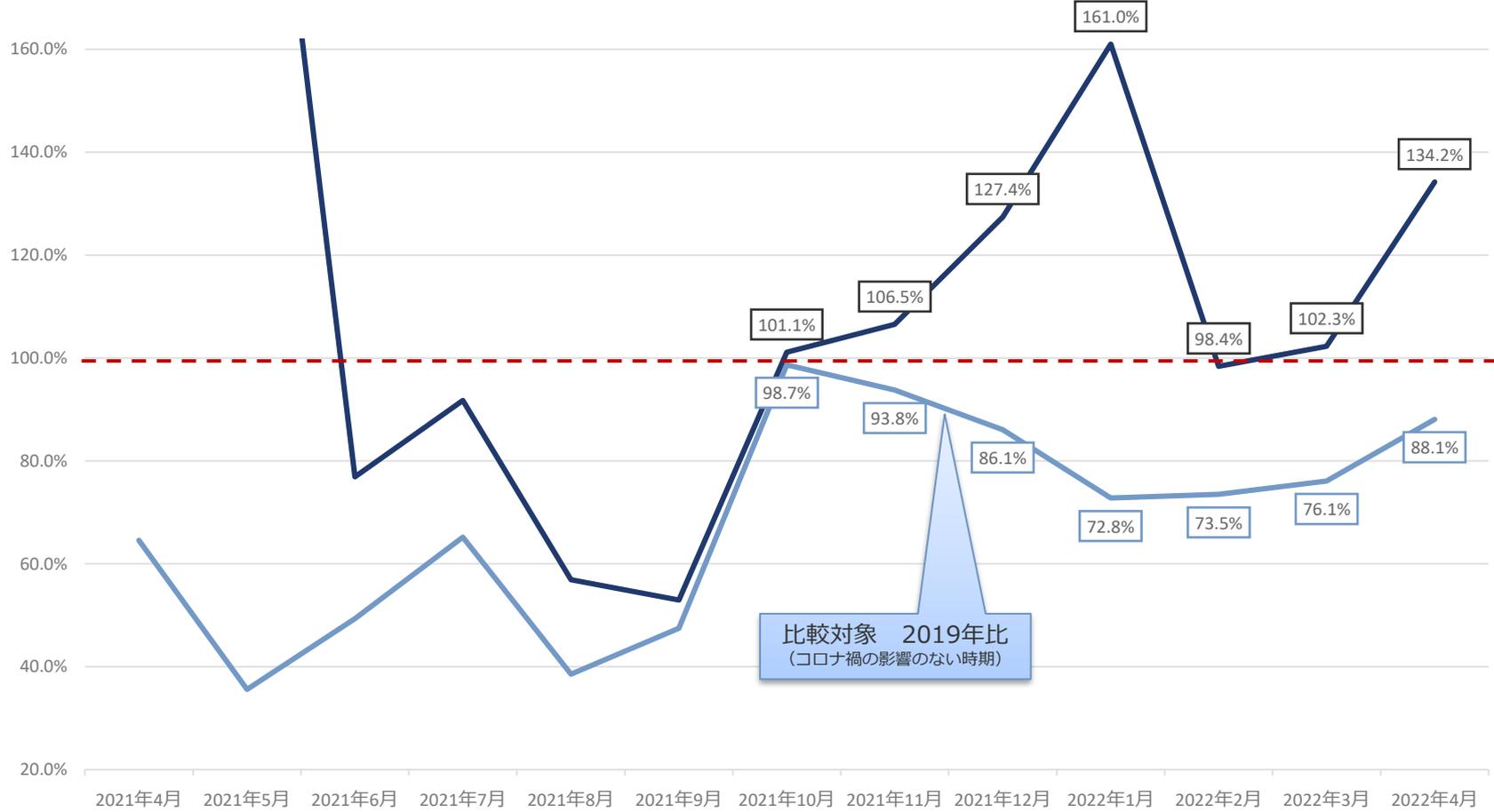


営業利益	102	116	51	60
営業利益率	40.5%	41.4%	30.4%	34.9%

【店舗事業】 既存店売上高（前年比／2019年比）

緊急事態宣言が解除された10月、11月と売上がコロナ前（2019年）の水準まで回復してきたが、2021年12月以降、コロナ第6波の影響により、回復ペースが鈍化して推移した。

店舗事業 既存店売上 前年比（2019年比）



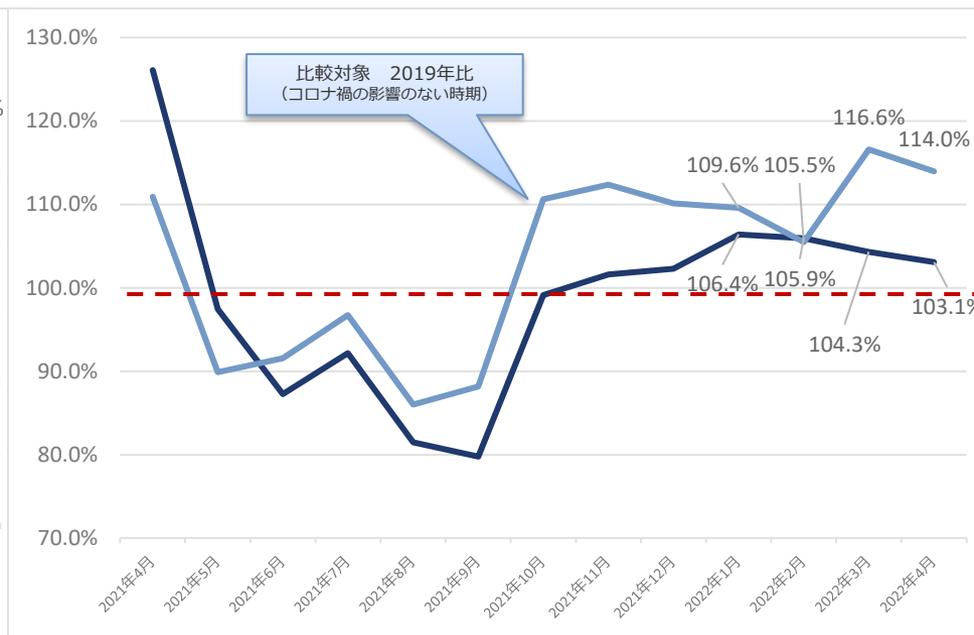
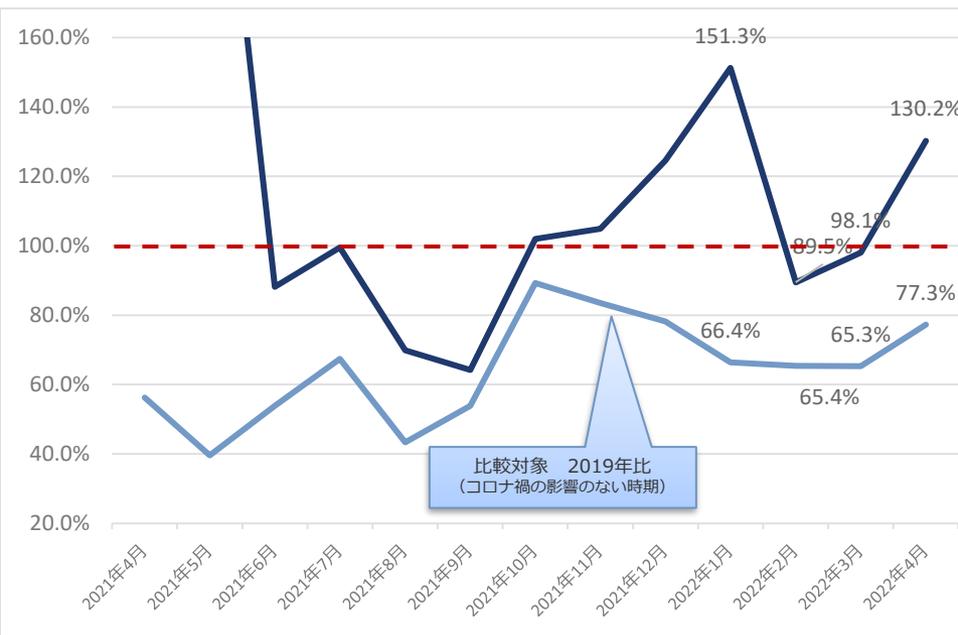
	2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月	2021年10月	2021年11月	2021年12月	2022年1月	2022年2月	2022年3月	2022年4月
■ 対前年比	829.8%	250.6%	76.9%	91.8%	56.9%	53.0%	101.1%	106.5%	127.4%	161.0%	98.4%	102.3%	134.2%
■ 対2019年比	64.6%	35.6%	49.3%	65.2%	38.6%	47.5%	98.7%	93.8%	86.1%	72.8%	73.5%	76.1%	88.1%

【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比／前々年比）

ポストコロナの消費動向に変化が見られ、客数はコロナ前（2019年）に比べ減少しているが、客単価はメニュー変更等によりコロナ前（2019年）を上回る。

店舗事業既存店 客数（前年比／2019年比）

店舗事業既存店 客単価（前年比／2019年比）

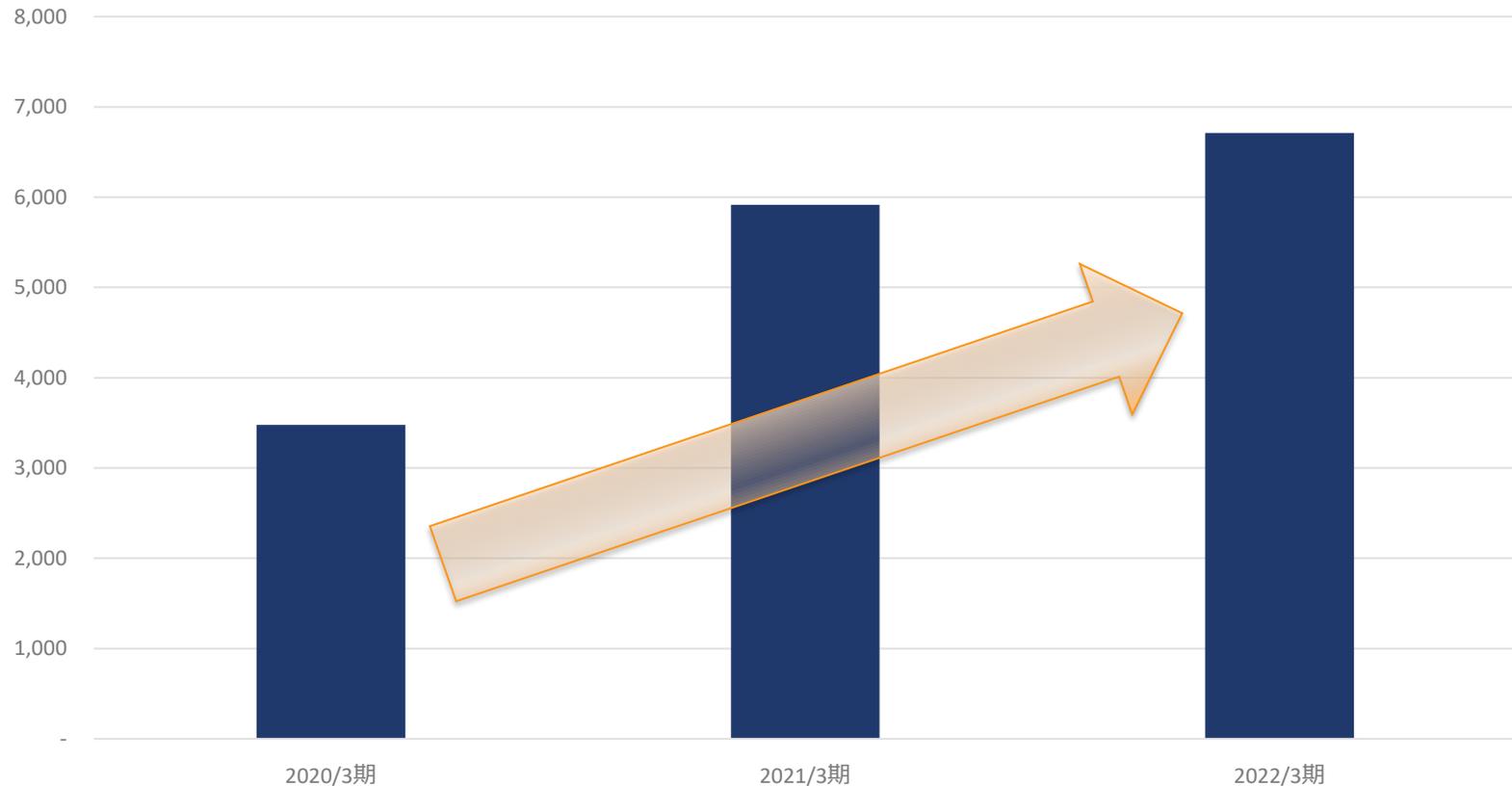


【海外輸出について】

海外向けの輸出も、香港などのコロナ禍の長期化で、伸び率が鈍化。
 今後は、資本業務提携先の阪和興業と、アジア市場の更なる販路拡大を目指す。

(単位：千円)

海外輸出売上推移

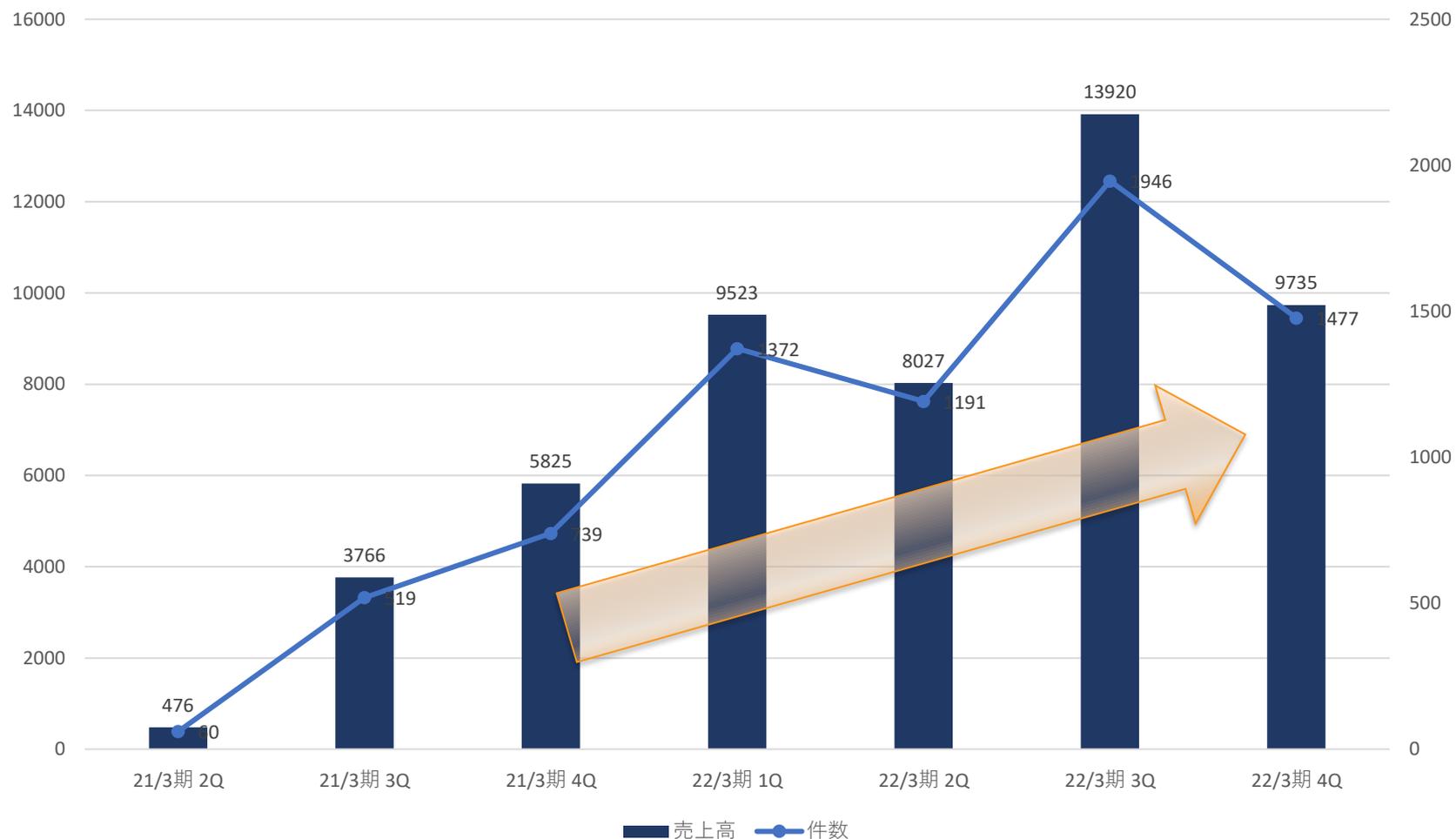


【EC通販サイトについて】

受注件数、金額とも順調に拡大。コロナ禍における新たな販売チャネルの多角化により、今後の収益力の拡大を目指す。

(単位：千円)

EC通販事業売上高（四半期）



2. 今後の取り組みについて



阪和興業株式会社との資本業務提携について

1 **阪和興業との加工事業での協業を推進し、将来的には合併事業化への進化を目指す**

2021年5月よりスタートした阪和興業との水産加工品（牡蠣以外）の受託業務が順調に稼働。今後さらに阪和興業の持つネットワーク・ノウハウを活かし、加工事業における長期的な収益源の拡大・強化に向けて進化させていく。

2 **成長分野の育成**

当社グループの安全を軸とした高品質な牡蠣の六次産業化のノウハウと、阪和興業の有するコンテンツ・ノウハウ、ネットワークを活かし、今後、成長が見込まれる牡蠣の陸上養殖事業や卸売事業、海外展開の育成を図っていく。



- ・店舗力の強化
- ・加工事業の強化
- ・卸売事業の拡大
- ・EC事業の新たなプロモーション展開
- ・陸上養殖の量産化の加速
- ・海外進出の加速



成長加速、収益性向上

- ・水産加工の国内プラットフォームの拡大
- ・小売、外食事業の育成
- ・保有コンテンツ（取扱い食材等）の活用
- ・陸上養殖による持続可能な水産の研究
- ・事業拡大を通じた新たな顧客層の開拓



**事業領域の拡大
新規顧客の獲得**

資本業務提携先の概要

阪和興業株式会社

(本社) 大阪市中央区伏見町4-3-9



事業内容

鉄鋼を中心
とした独立系

商社

売上高 (2022年3月期予想)

2兆1,000億円

設立

1947

年4月

海外拠点

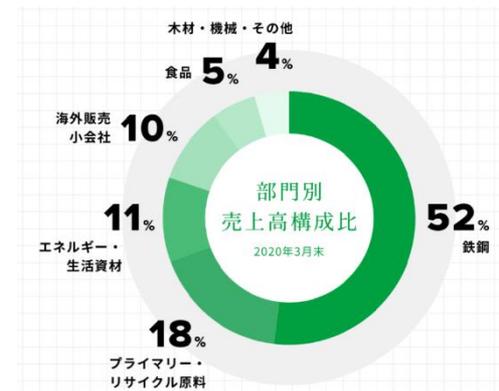
24カ国 44拠点

食品事業

特に水産物に
おいては数多く
の取扱い品目で
輸入シェアが

トップ レベル

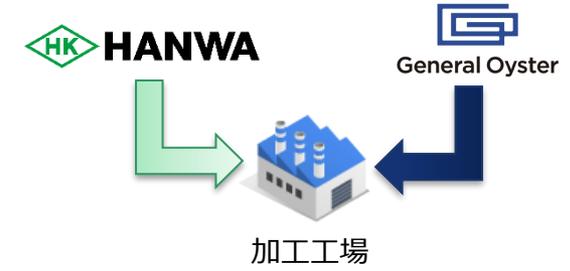
海外ネットワーク



阪和興業株式会社との資本業務提携について

1 「加工事業における収益構造改革」

- 水産物（牡蠣以外）の加工事業での協業などにより、中長期的かつ安定的な収益の確保が見込まれる



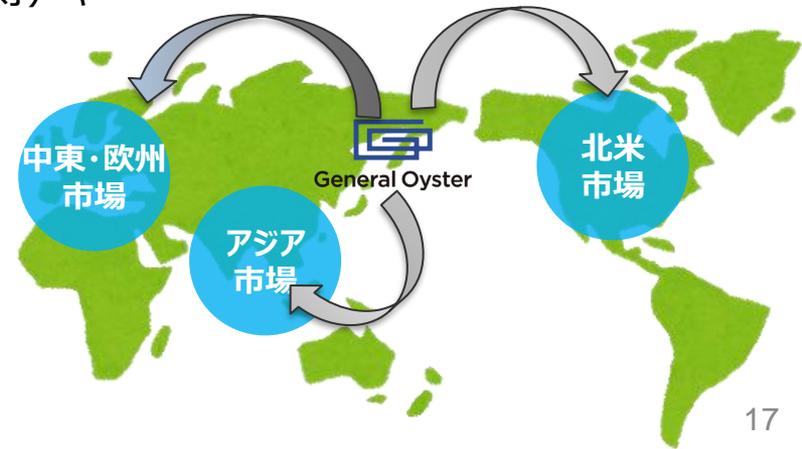
2 「小売事業における協力関係の構築」

- それぞれのノウハウやネットワークを相互活用することで、商品・ブランド・事業の強化と販路拡大を実現する

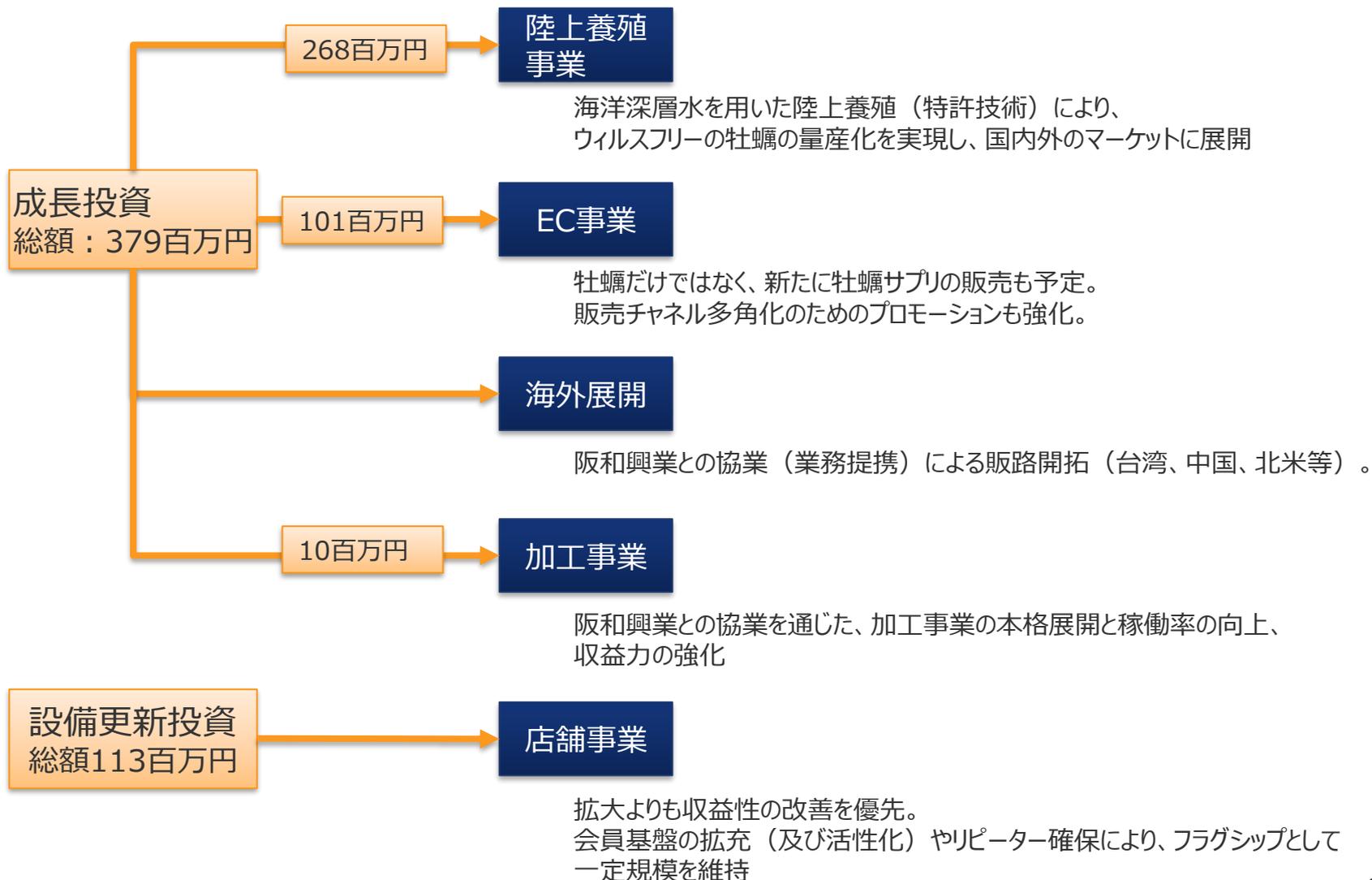


3 「成長分野の育成」

- EC・プラットフォーム事業などで、当社グループと阪和興業の保有するコンテンツ・ノウハウを活かし収益性向上と成長加速を図る。
- 当社グループが持つ陸上養殖技術（特許取得）や浄化技術（特許技術）と、阪和興業が持つ海外ネットワークを掛け合わせ、海外展開のスピードを早める。



成長投資・設備更新投資：総額約5億円

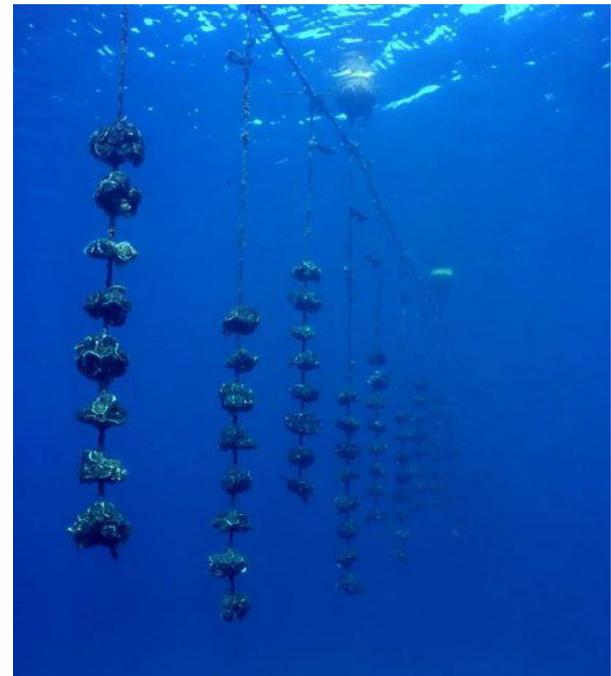


その他、（中期）経営戦略の進捗状況

コロナ禍に臨機応変に対応しつつ、再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
コロナ禍で継続する『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	◎	引き続き、推進
再成長に向けた『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など販売チャネルの多角化	◎	引き続き、推進
	店舗事業の収益拡大	○	少ない売上でも利益を出せる、筋肉質なコスト構造への転換が完了・定着し、損益分岐点が低下
	国内卸売事業の収益拡大	◎	コロナが落ち着き、取引先が拡大傾向
	海外輸出事業の収益拡大	△	海外（特に、台湾・香港市場）におけるコロナ禍の状況次第
	加工事業による収益貢献	◎	受託事業が稼働を開始し、損益改善に貢献。さらなる稼働率向上を見込む
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	陸上養殖のアタラナイ牡蠣のローンチ	△	実証実験が進み、2022年夏にお披露目予定

3. 2023年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2023年3月期の連結業績予想は「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

(百万円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	2,539	未定	-
営業利益	▲283		-
経常利益	▲288		-
当期純利益	287		-

※新型コロナウイルスの影響の見通しが立たず、現時点での業績予想は「未定」とさせていただきます。



General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。